



3月30日

「にぎわいの里のいち カミーノ」
オープニングイベントでのテープカットの様子

ごあいさつ

平成31年4月5日

新元号が「令和」に決定されました。

発表されたときは、月はじめの「ホームタウン野々市」への出演中で、職員がスタジオに新元号を書いたメモを入れてくれたのですが、見た瞬間、本市の市民憲章にある「愛と和」の「和」があると思いました。

新元号の発表もあり、とても記憶に残る新年度のスタートとなりました。それに加え、3月30日、31日と「にぎわいの里のいち カミーノ」のオープニングイベントがありました。両日ともあいにくの天候だったのですが、それでも多くの皆さんがお越しになられました。私自身が思い描いていた、たくさんの笑顔にあふれたにぎやかな雰囲気が醸し出され、こういう風景がこれから定着していくといいなと思います。

「カミーノ」は、これまでの中央公民館、そして地区公民館としての野々市公民館の機能に加え、市民協働のまちづくりを進める拠点となる市民活動センター、さらには本市の特産品の販売や観光PR拠点となる民間商業施設をあわせた交流拠点施設となっています。民間商業施設には「1の1NONO ICHI」と名称をつけました。かつてこの場所に、野々市尋常高等小学校があったことを含めて、学びの場として、シェアキッチン、シェアオフィスから新しいビジネスチャンスを引き出していきたいとの思いから設えたものです。

カミーノの施設整備をしたことは、あくまで過程であり、これから市民の皆さんの自由な発想で活用いただき、どのような展開がくり広げられ、どのようにこの地域が変化していくのかを期待しております。

野々市は古くは北国街道、白山大道が交わったことから、交通の要衝として栄え、人とモノが行き交うことで地域の歴史や文化が育まれた歴史があります。そのことをあらためて見つめなおし、これから「北国街道にぎわい創出プロジェクト」を進めていきたいと思っています。

街道沿いにある、国指定の重要文化財「喜多家住宅」は加賀の典型的な町屋造りを今に伝えていますが、かつては造り酒屋であり『^{しょうじょう}猩々』という日本酒を製造していました。この再現ができないものかという思いもありますし、また喜多家住宅だけでなく、他にも活用できるものを発見していくことで北国街道をさらに際立たせていきたいと考えています。

3月16日、17日には「花と緑ののいち椿まつり2019」が開催されました。こちらもあいにく天候がよくなかったのですが、全国椿サミット以来、中央公園を含めた会場に拡大したことで市の内外から根強い椿の愛好者の方や、椿まつりに期待されている方にお越しいただき盛況のうちに終えることができました。

中央公園にある椿山や椿館にも多くの方々の関心が高まっていますが、これらが国際つばき協会が認定する「国際優秀つばき園」となることに向けての準備も進めていきます。

全国手話研修センターが新元号「令和」の表現を「指先を上に向けて5本の指をすぼめた片手を、前に動かしながら指先を緩やかに開く」という動きに決定しました。あたかも春先につぼみが開いて花が咲く様子、手を前に押し出す動きは「未来に進んでいく」という意味だそうです。

「令和」が本市にとっても、花開き、明るい未来へと進んでいく、そのような時代となることを期待し、またそうなるよう、さらなる努力を続けたいと思います。